



黒川 美克 議員

学校施設の老朽化について

問 各学校施設の老朽化の現状について。

答 高浜市は、築年数30年を超えた校舎等は、翼小学校を除く小中学校全てという現状です。高浜小学校は建築後56年、高取小学校は50年を迎えている校舎を有している状況です。充実した教育活動を推進するには、安全性、防災性、防犯性に配慮した安全・安心な施設であることが求められます。また、学校施設は、災害時には、緊急避難場所として活用される重要な役割も担っています。こうした安全で、安心できる施設とするため、本市では、これまで、限られた自主財源の中で、着実に耐震化の向上に努めてきました。特に耐震補強工事は、全ての小中学校で完了しています。

問 各学校施設の保守・修繕の考え方について。

答 学校の保守は、学校現場で

は校務主任が担当しており、学校経営グループ職員が随時学校をまわっています。また、年2回、各校の校務主任が集まる校務主任者会議を開催しています。現在の最優先課題は、屋内運動場の非構造部材の落下防止対策であり、国庫補助も申請しているものの、一般財源から十分な額の支出が必要となっています。また、「高浜市公共施設あり方計画（案）」の「公共施設あり方計画推進プラン」では、大規模改修の時期を示すとともに、現地調査の結果、劣化の著しい施設の緊急修繕の時期も示されています。このプランに基づいて、必要な予算を計上したいと考えています。

問 今後の学校施設の保全計画について。

答 議員のご質問にありました学校施設の保全の手引きを作成するとともに、中期にわたる保全計画を策定するといったことが、この保全編において考え方が明記してあるものと理解しています。

今後学校施設を核として機能の複合化を図るということは、核となる学校施設を適切に維持管理していく必要性を踏まえ、現在策定作業中の公共施設総合管理計画で明記します。



小野田 由紀子 議員

生活困窮者自立支援制度について

問 生活困窮者自立支援制度の事業の進捗状況と今後の取り組み。また、行政や地域住民、ボランティアと地域福祉コーディネーターが連携して取り組む仕組みづくりについて。

答 自立相談支援事業は、累計で30件。生活に不安や心配のある方の課題の解決に向けた支援を行った。家計相談支援事業は、2名に家計相談員による専門的な支援を行い、2名の就労支援では、1名の就職が6月に決定するなど一定の成果を上げている。7月から、中学生を対象に学習支援を実施し夏休み期間中、週3日、宿題やテスト対策講座や昼食づくり、ワークショップなどをを行い、子どもたちの社会性や価値観の視野の広がりにつながることを期待しています。また、この制度を適用していくには、民生・児童委員や地域の

方々、関係機関の方々にご協力いただき、地域福祉コーディネーター等の「つなぎ役」がキーパーソンとなり、地域で一体となって支援に取り組むことが非常に重要であると認識しています。ご提案いただいた豊中市の取り組みも参考にし、検討してまいります。

人と動物が共に幸せに暮らすまちの実現について

問 人と動物が共に幸せに暮らすまちの実現についての広報・啓発について。

答 愛知県が進めている動物の譲渡などの取り組みの周知や、動物を捨てることは犯罪であることなど、動物保護管理センターと連携しながら、広報・啓発活動の強化に努めてまいります。

問 災害時の動物救護マニュアルと取り組みについて。

答 東日本大震災での避難所運営の教訓を生かした「高浜市避難所運営マニュアル」を平成26年6月に策定し、「ペットの扱いについても記載しており、町内会、まちづくり協議会、小中学校に配布。昨年モデル地区として、吉浜小学校区での訓練で、実際に犬を連れて実施しました。